

水門

津波対策の有効な方法として北海道で初めての津波水門の設置が検討され、釣懸川水門が平成7年3月、塩釜川水門が同年9月、赤石川水門が平成12年10月、青苗川水門が平成13年5月にそれぞれ完成しています。

水門は、全閉において河川流量を排水できるフラップゲートが設置されており、治水面にも対応できる構造となっています。

地震発生時に震度4程度を検知すると約1分間の非常放送後に自重降下を開始し、ゲートが全閉する機能となっていますので、万一の津波の襲来から河川及び周辺の地域を守ることができます。



▲津波対策として設置された青苗川水門

青苗小学校

地震、津波により被災を受けた青苗小学校は、国の「公立学校施設整備費」の補助を受けて校舎の新築工事が進められ、平成7年3月20日に完成しました。

この校舎は、「ピロティ構造（高床式）」となっており、2階と3階部分が教室、通常の建物の1階に相当する部分が空間になっていることから、津波の回避等に効果的な構造となっています。

▼津波対策として1階部をピロティ（空間部）構造とした青苗小学校



その他の復旧・復興

奥尻地区 観音山

地震による大規模な崖地の崩壊が発生し、島外宿泊者らの多くが犠牲となった奥尻地区観音山の治山工事が完成し、奥尻島復興のシンボルとして大壁画が設けられました。

(現在、大壁画は撤去されています。)



▲崩壊した崖地は大壁画とともに蘇った

青苗漁港 人工地盤

人工地盤は、災害時の迅速な避難誘導を図る防災機能をはじめ、水産業における就労環境の改善・向上や憩いの空間を創出する親水性など多機能施設として、地域活性化と安心・安全なまちづくりのシンボルとなっています。



▲青苗漁港人工地盤の全景



■施設の概要

規模：高さ／6.2m (D.L.+7.7m) 幅／31.9m
長さ／163.5m 面積／4,650㎡

構造：一本の柱から傘状に広がる六本の梁が連続しているヴォールト構造

避難階段：5箇所配置 (内3箇所は、シェルター有り)

使用用途：漁具保管修理施設用地／2,185㎡ 駐車場／662㎡
漁港環境施設用地／540㎡ 道路敷／1,163㎡

徳洋記念緑地公園

津波により完全流失した青苗地区は、徳洋記念緑地公園として生まれ変わり、中央には、この災害で亡くなられた198名の名前が刻まれた慰霊碑「時空翔 (じくうしょう)」が建立されており、また、この大災害の記録を後世に語り継ぐための施設として、奥尻島津波館が、平成12年11月に完成し、平成13年5月から本格的にオープンしています。



▲慰霊碑「時空翔」



奥尻島津波館▶